



家鴨は王子の御手の上に飛んで来ました。王子はその家鴨の體をふわりと抱いてきて家鴨に向つて申しました。

『白い榛よ、わしの前に立て、美しい娘よ、わしの前に立て』

すると白い鴨は以前の美しいお姫様の姿に變りました。そして鵲の巢の中にある生命の水と言葉の水とを取つて呉れるやうに頼んで、まづ生命の水を子供等の軀に吹きかけて生返らせ、それから言葉の水をかけて口の利けるやうにしました。そこで王子は急に生き返つて来たお姫様や元氣のいゝ子供達に取巻かれて一緒に暮し一緒に遊び、良い事をして悪い事を避けて過すことになりました。

魔法使ひの婆さんは、王子の御命令で馬の末尾に結付けられて、廣い荒野の中へ引ずられて行きました。そして澤山の鳥共が集つて来て婆さんの軀を啄いて喰べて仕舞まひました、そしてその骨は天から吹いて来た風に吹き飛ばされて跡方もなくなつてしまひましたとさ。

大正十年二月十五日印刷
大正十年三月二十五日發行

露西亞童話集

定價金壹圓貳拾錢

譯者

秋田雨雀

發行者

東京市神田區多町一丁目四番地
川津虎之助

印刷者

東京市神田區松住町五番地
菅井十一郎

不許複製

發行所

東京市本所區松倉町
二丁目二十七番地

矢野博信書房

82

= 1286

5 11/19
15



終